

The Rotary Club 06 Hamamatsu Siyou Weekly Report 浜松志耀ロータリークラブ 週報

浜松志耀ロータリークラブ 第88回例会

開催日時: 2026年9月24(木) 7:30 ~ 8:30

開催場所: オークラクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間



■ 会長挨拶 松井会長

皆様、おはようございます。私は仕事で、他県に行くことがあり、その際にふとした、小さなやさしさに出会うことがあります。居酒屋で「どこから来たの」と、隣にいる人から声をかけられ、おすそめ郷土料理をすすめられたり、道に迷っていたら、「どこまで行かれるんですか」と声をかけてくれる方。こうした他人同士の、やさしさに、ほっとする瞬間があります。「やさしい」という言葉の語源は、「やせる」という動詞だそうです。もともとは「身が痩せ細るような思い」、誰かのつらさを、自分も同じように痛みとして、受けとめることを表していました。それが長い年月をかけて、「心が柔らかい、思いやりがある」という今の意味へ移っていきました。日本語の「やさしさ」というのは、他人を慰める言葉ではなく、**他人の痛みを自分が引き受けることを言い表しています。**

「情けは人の為ならず」という言葉もあります。本来の意味は、人に向けた親切は、めぐりめぐって、いつか自分のもとにやさしい形で戻ってくる、親切というものは決して損ではなくて、人と人との間を、うれしい輪になって巡っていく、というあたかな教えです。

この心には、**三つの流れ**がそそいでいると思います。**ひとつは仏教の教え**です。平安の昔、最澄は「**己れを忘れて他を利するは、慈悲の極みなり**」、つまり、自分を忘れて誰かのために尽くすことが、慈悲といういちばんの姿だと説きました。もうひとつは**武士道**です。新渡戸稲造が「武士道」の中で「仁」の章に書いたのは、**強い者が弱い者をいたわる、慈悲と寛大さの心**でした。そしてもうひとつは、**日本に昔から流れてきた「おかげさま」「お互いさま」の感覚**です。

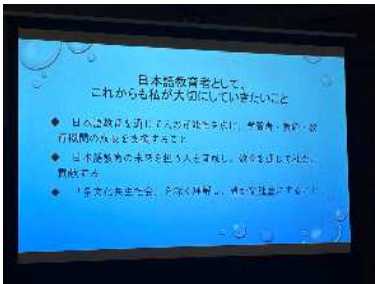
今日の暮らしも自分ひとりの力ではなく、**見えない多くのみなさまのおかげ**だと、そう感じて生きてきました。この感覚は、暮らしの中にも形として残ってきました。日本には「**結い**」といって、家を建てるときも、田畑を耕すときも、村のみんなが自然に手を貸し合う、やりくりがありました。お金を出し合って困ったときを支え合う「**講**」もありました。四国には「**お接待**」という風習が今でも残っています。旅の途中のお遍路さんに、見返りを求めず、茶や食事を差し上げる。お遍路さんを大師さまの化身としてもてなす、「**同行二人**」という心のあり方です。貸した、借りた、と数えない助け合い。日本人のやさしさの原点は、心の中にあると思います。

災害のときも、避難所で丁寧にお茶と食事を配る若い人たちや、ボランティアの方が、被災者に声がけをして、話を聞くことで、少しでも安心を与えられるように動き回る姿や、声をかけられる前に、黙って床を拭き始める、地域のお年寄りの姿もありました。静かで、落ち着いた動きの奥にこそ「**お互いさま**」の心が息づいていると、感じます。

この心は、ロータリーの精神と似ていると思います。「**超我の奉仕**」は、自分の都合を越えて、誰かのために動こうという心の声です。し、「**四つのテスト**」も、真実か、公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるか、と静かに問いかけてくれます。遠い国で生まれた理念が、日本人がずっと抱えてきた「**お互いさま**」の気持ちと、同じ方向を向いている。その重なり、小さな誇りを感じます。

やさしさは、特別な才能ではなくて、誰にでもあります。隣の方へのあいさつに、もうひとつ笑顔を足すことから始める。かけた情けは、必ずあたたかい輪になって戻ってくると信じています。

本日の例会も、その輪のほんのひとつと、なりますように。語り合える時間を、楽しみにしております。ありがとうございました。



■ 幹事報告 平野幹事

本日理事会です 会費納入のお願い 次回例会ガバナー公式訪問より多くの参加をお願いします。

■ 議事 会員卓話 松葉会員 ・昨今の留學生の情況・卒業後の日本での活躍について

担当: クラブ管理運営委員会

浜松日本語学院 校長を務めるなか、長年の日本語教師としての経験と視点から、卓話いただきました。

・OL時代のアフターファイブでエアロビをしていて、そのベルギー人講師から「日本語を学べる場がなくて困った」と

いう話をきっかけに、会社を辞め、日本語教師を志した。

・1990年代は入管法改正で南米系の日系人の方々が多く来日し定住された、当時は「デカセギ」という表現もあった。

・母国語も日本語も話せない「ダブルリミテッド」の子女が社会的課題となった。

・浜松市は、未就学児童ゼロをきっかけに先駆的に課題解決に取り組んできた(松葉会員も)。

・2000年代からは外国人技能実習生という制度から東南アジアを中心に来日定住化が進んだ。

・2019年日本語教育推進法が施行、日本語教師も国家資格へ。

・ドバイやイスラエルも外国人人材を大量に迎え入れているが、かれらに「教育」をするという観点では、日本の方が強い。

・日本の文化を知ってもらう、ルールを守ってもらう、日本語をちゃんと習得してもらう、という従来のアプローチではなく、今後は、社会でも職場でも、日本人側から、日本の文化を「発信」し、文化の相違のすり合わせをし、社会に参画してもらうよう働きかけていく、共に学ぶ共に成長していく「共生」していく「覚悟」が求められている。

■ スマイル報告 西川会員

松井会長 - 卓話者松葉会員への感謝。

衛藤会員 - 松葉会員への感謝、またゴルフよろしく願いたします。

■ 出席報告 種村会員

■ 司会進行 松川会員



ゲスト0名
出席率: 71% (会場 20名 + BAND 2 = 22名 / 31名)

国際ロータリー第2620地区 静岡第5グループ 浜松志耀ロータリークラブ
例会場 / オークラアクティシティホテル浜松 第2・第4木曜日 / 7:30 - 8:30 info@h-siyou-r.club

